

□海外文献紹介□

シメチジン、喫煙と十二指腸潰瘍の再発

Cimetidine, cigarette smoking, and recurrence of duodenal ulcer: Sontag S, et al (N Engl J Med 311: 689-693, 1984)

喫煙は十二指腸潰瘍再発の重要な因子であり、禁煙はシメチジン投与よりも再発防止には重要と考えられる。シメチジン（以下C）の長期投与が十二指腸潰瘍の再発を防止するか否かを検討する目的で、19施設において内視鏡で治癒を確認した370人を、C 200 mg 1日2回就寝前、C 300 mg 1日2回、C 400 mg 1日1回就寝前、および placebo（以下P）投与の4群に分け、6か月後、12か月後には全例に内視鏡検査を施行したほか、症状再発、便潜

血陽性、ヘマトクリット5%以上下降、メレナのいずれかが認められたときにも内視鏡検査を行って、12か月間経過観察した。胃液酸度を含めて、各群間に有意差はなかった。

その結果、①症状のある再発はC群：6か月8%、12か月14.2%、P群：6か月32.7%、12か月34.7%であり、6か月後、12か月後ともにP群のほうが有意（ $p < 0.01$ 、以下も同じ）に高率であった。②無症状のものを含めた全再発率もC群：6か月16.9%、12か月27.7%、P群：6か月47.9%、12か月49.7%で、同様にP群に有意に高率であった。③各C群間では、再発率は300 mg 1日2回群（23%）と200 mg 1日2回群（39%）の間でのみ有意差があった。

④P群のうち喫煙者は72%、非喫

煙者は21%が12か月後に再発し、この差は有意であった。⑤C群でも喫煙者の再発が高率であったが、喫煙者でもC投与群はP投与群よりも再発率が有意に低く（有症状再発：4% vs 12%、全再発：22% vs 51%）、Cは喫煙者に対しても再発予防効果があると考えられた。⑥しかし、非喫煙者では、12か月後の再発率はC群18%、P群21%で有意差がなかった。また、非喫煙者のP投与群と喫煙者のC投与群では、12か月後にそれぞれ21%、34%が再発し、有意差はないが後者が高率であった。喫煙者ではC服用よりも、禁煙のほうが再発防止には有効と結論したくなる結果であった。

（関東通信病院消化器内科

土谷春仁 抄）